

おおむら
大村のぶまさ
展正
誠友会

(40分)



米の生産と水田の活用は

問

①本市では、米の生産について、水田所有者にどのような働きかけているのか。

②今後の水田の活用について、どのように考えているか。

答

①米の生産量は近年、5500トン前後で推移しており、本市で消費される量の約4分の1を

占めている。米の安定供給を図るため毎年、水田所有者に対して、生産状況や需要動向を示すことにより、米の作付面積の維持拡大の必要性について周知している。

②今後、生産者の高齢化に伴い、米の作付面積の減少が想定されることから、地域計画に基づき、水田の集積、集約化を進め、経営力のある法人等の参入を促進し、低コストで生産性の高い営農ができる環境を整えていく。

たなか
田口ゆうじ
裕司
誠友会

(65分)



個別避難計画の策定とその後の地域連携は

問

平時からの地域コミュニティの強化にどのように貢献しているかと捉えているか。

答

地域住民がお互いに知り合い、信頼関係を築くことはコミュニティの強化につながると考えている。

終活支援は

問

個人の尊厳に関わる重要な問題であり、安心して終末期を迎えられるよう行政としての支援が不可欠であると考えているが。

答

個人の価値観や生き方に深く関わるものであり、本人が主体的に取り組む必要がある。高齢者一人一人が充実した人生を送れるよう関係機関と連携して取り組む。

こいずみ
小畠たかひろ
崇弘
誠友会

(60分)



動物愛護行政は

問

動物愛護センターでは、民間愛護団体、個人ボランティアの方々に子犬、子猫を預ける一時預かりボランティアがあるという。生後8週未満の子犬、子猫に関しては、ミルクボランティアの協力がなければならないと考える。ミルクボラ

答

ボランティアへの支援として、ミルクの費用などの負担軽減について検討する必要があると考



ミルクボランティア活動の様子

かいばら
貝原やまと
大和
誠友会

(60分)



より働きやすく、より信頼される市役所は

問

①過去3年間における懲戒処分の件数とその内容、内訳は。また、再発防止に向けた取り組みは。

②過去3年間の会計年度任用職員の人数と推移の状況は。

①2022年度から3年間

答

①2022年度から3年間

で8件である。そのうち、職務に関連するものが4件、関連しないものが4件で、被処分者は9人である。

再発防止策としては、法令遵守を含む公務員倫理に関する職場研修などにより服務規律の確保に努めている。

②2022年度以降3年間の3月末時点の人数は、3121人、3206人、3149人である。

